

中国民家の屋外・半屋外空間と気候の関係に関する考察

○ 王健* 田中辰明**

(*お茶大院, **お茶大)

「目的」中国民家に対して、建築計画的な調査は多かったが、本研究では、熱環境の立場から広い範囲において、気候に応じる典型的な中国“四合院”民家を考察した。昔の中国の人々はエネルギーが十分得られなかった時代にどのように屋外空間の中庭と半屋外空間の縁側などを利用して、室内環境を良好に維持したかについて研究し、いろいろな工夫を現代建築設計の参考資料とすることを目的とした。

「方法」中国の“四合院”民家が存在する東北地方、華北地方、華中地方、華南地方四つ地方の民家について資料を収集し、整理を行った。そして、その資料に基づき、民家の建築面積と中庭面積などの比の計算を行った。この計算結果と地域の気候特徴を分析し、建築、屋外空間の中庭、半屋外空間の縁側と気候の関係を考察した。

「結果」考察の結果によると、前述の四地域における、配置方式が同じである“四合院”民家に関し、屋外空間の中庭の割合に着目して、大きい順に並べると：東北地方、華北地方、華中地方、華南地方と、北から南に行くに従って小さくなる。一方縁側と開放された庁堂の割合が大きくなる。もちろん中庭など形態に影響を与える要素は他にも多くあるが、気候の影響は極めて重要な要素であるのは明らかである。その結果は民家の建築面積と中庭面積などと緯度との関係を明らかにし、気候の変化にしたがって規則性が示した。